

4 令和4年度ブナ・ナラ類豊凶調査結果

(環境企画部)

森林生態系への影響や異変を察知することを目的に、平成15年度からブナ16箇所（15箇所は豊凶予測及び結果、1箇所は結果のみ）、ミズナラ9箇所、コナラ11箇所について調査を行っている。

(1) 調査方法

調査地に落下物捕捉のためのトラップ（面積1㎡の円形ネット）を5～10個設置し、豊凶予測及び結果の判定を行う。

ブナの豊凶予測は、6月末までの雄花の数を集計し、その数から雌花数を推定して判定する。判定の基準は、推定雌花数が350個/㎡以上を豊作、90～350個/㎡未満を並作、90個/㎡未満を凶作予測とする。

また、ブナ及びナラ類の豊凶結果は、回収した実から健全な実を判別し、判定する。豊凶の判定については、ブナは200個/㎡以上を豊作、50～200個/㎡未満を並作、50個/㎡未満を凶作とし、ミズナラは20個/㎡以上を豊作、5～20個/㎡未満を並作、5個/㎡未満を凶作とし、コナラは40個/㎡以上を豊作、20～40個/㎡未満を並作、20個/㎡未満を凶作とする。

(2) 調査結果

ア ブナの豊凶予測結果

令和4年の豊凶予測は、豊凶予測を行った調査地14箇所のうち、豊作が5箇所、並作が7箇所、凶作が2箇所であった（図1）。

イ ブナ・ナラ類豊凶結果

(ア) ブナ

落下物の回収ができなかった1箇所を除く調査地15箇所のうち、豊作が2箇所、並作が5箇所、凶作が8箇所であった（図2）。落下物には、未成熟雌花（未成熟殻斗）、シイナ（未成熟種子）、虫害種子が多数確認された。

(イ) ミズナラ

トラップが設置できなかった1箇所を除く調査地8箇所のうち、豊作が6箇所、凶作が2箇所であった（図3）。

(ウ) コナラ

調査地11箇所のうち、豊作が5箇所、並作が1箇所、凶作が5箇所であった（図4）。

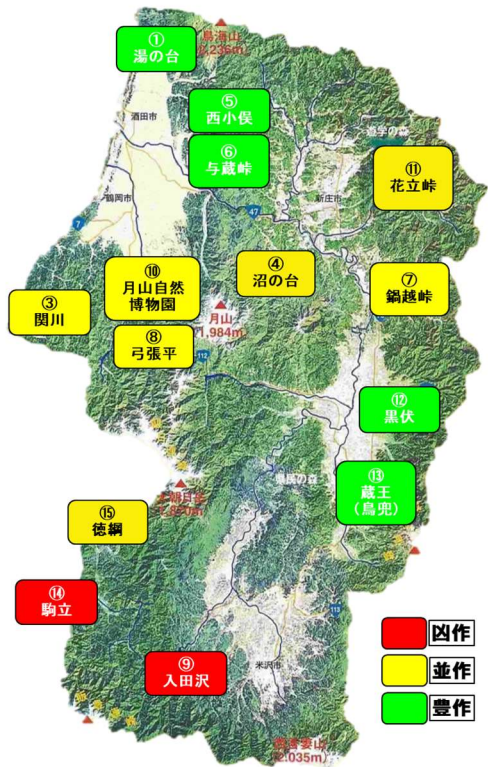


図1 ブナ豊凶予測結果

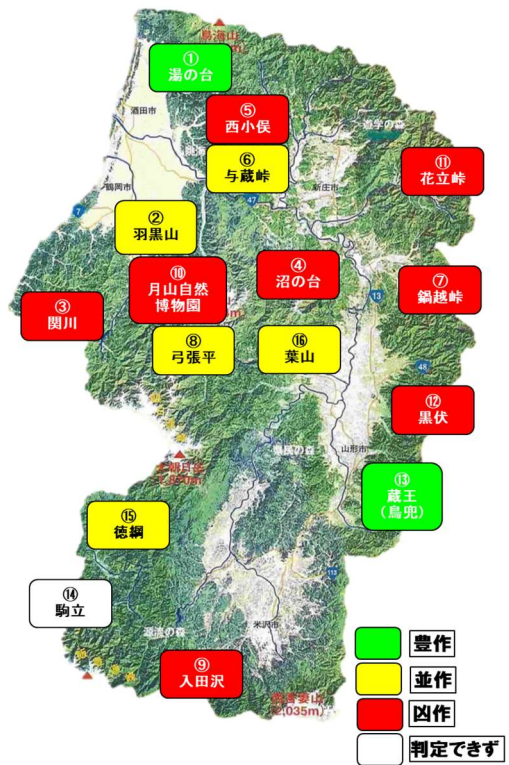


図2 ブナ豊凶結果

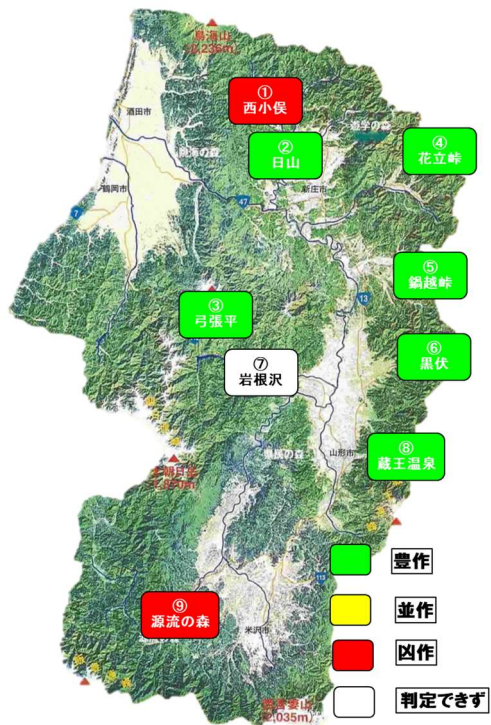


図3 ミズナラ豊凶結果

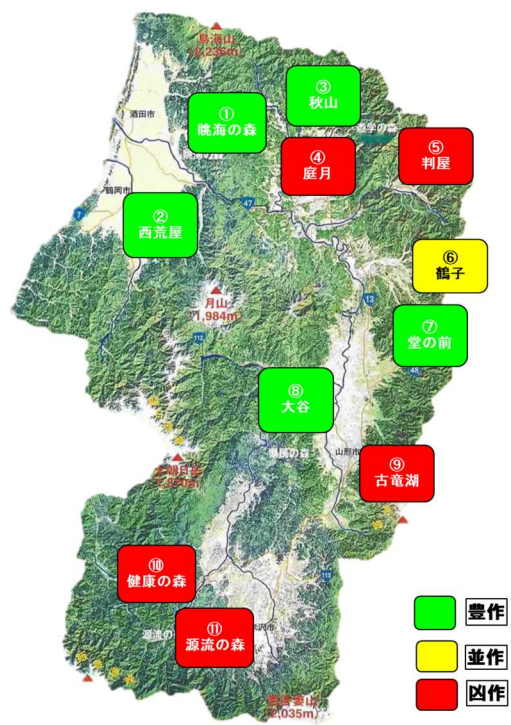


図4 コナラ豊凶結果